

派遣隊ニュース

～ with 岩泉 ～

No. 3 平成23年4月19日

かんぱってるよ～



4月中旬を迎え、岩手県岩泉町では、まだ風が冷たく感じる日がありますが、日を追うごとに温かくなり、桜のつぼみがふくらむなど春の訪れが目に見えてきているとのこと。また、余震は、断続的に起きてはいるものの、その規模も小さくなりつつあり、町の方々は落ち着いて生活しているようです。

今号は、派遣隊第3班の皆さんの報告です。

◎岩泉町派遣隊第3班

・派遣期間 平成23年4月8日(金)から4月15日(金)まで

・主な任務 避難所に避難している人たちが被災地に行ったり、仕事に出かけたりする場合の入退室管理。面会者への対応。郵便物管理。

※ 時間(昼) 午前8時30分から午後5時30分まで

(夜) 午後5時30分から午後11時30分まで及び午前5時30分から午前8時30分まで

<平成23年4月18日(月) 8時30分 市長室にて報告>

避難所

- 岩泉町民会館に約25人、龍泉洞温泉ホテルに約140人、合わせて約130世帯の人たちが避難している。町民会館の避難者は減ってきている。
- 普段は明るく振る舞い、笑い声も聞こえてくるが、親族など親しい人たちと話すときには、「早く出たい。」などの本音も出るようだ。
- 食事は、朝夕には温かいものが出る。昼はパンやおにぎりが配られる。
- 風呂には、ほぼ毎日を入れる。
- 被災した自分の家を見に行ったり、片付けに行ったりする場合には、バスでの送迎がある。
- 子どもたちは、避難所から学校へ通っている。

仮設住宅

- 5月中旬(連休明け)までに約130戸の仮設住宅が完成する見込み。
- 被災当初から避難所に入っていない人たちの中にも仮設住宅への入居を希望している人たちがいて、その対応も課題となっている。

町民

- 「小本に戻りたいが、何世代か後にまた津波が襲って来ることを考えると、



もう海の近くには住めない。」という人がいた。

- 漁業関係者で船や機材が沈んでしまった人が、「家は1～2年で再建できても、漁業にもどるには何年かかるか分からない。」と話していた

町職員

- 被災処理と人事異動が重なり、家に帰れない人もいる。

支援物資

- 「龍ちゃんドーム」に十分届いていた。現在、避難所に避難している人たちには十分行き届いているようだ。仮設住宅が完成したら、入居家族を中心に配布する予定。

ボランティア

- 小本地区には、まだ、自衛隊、消防、警察と地元の人たちしか入ることができない。
- 他の自治体の人たちとは会わなかった。

小本ほか被害の大きかった地区

- 小本地区海岸に高さ10m規模の堤防(1ページの写真)があるが、そこを津波が越えてきたとは信じられない。
- 小本から海岸沿いを南に行くと、宮古市田老町や山田町の被害は更に甚大であった。片付いているのは道路だけ、瓦礫は未だに手付かずで、粉塵がひどく、搜索作業も困難を極めていた。

余震

- 断続的に起きてはいるものの、規模も小さくなりつつあり、町の人たちは落ち着いて生活している。

【北川市長の派遣隊員への言葉】

今回の経験を生かし、昭島市の防災計画の見直しに積極的な意見を出して欲しい。

【派遣隊第3班の皆さんの感想】

鈴木 隆さん(市民部課税課)

被災地の復興と町民、職員の皆さんの心と体が休まる日が一日も早く訪れるのを祈るばかりだ。

山崎 忠さん(都市計画部区画整理課)

町の復興と同時に人々の心のケアがたいへんなことだと感じた。ささやかな手伝いでも役に立てたならうれしい。

大沼晴之さん(環境部環境課)

人と人との心のつながりが強いと感じた。復興への力になると思う。

星野敏明さん(生涯学習部スポーツ振興課)

被災地の現状を目の当たりにしたときは言葉が出なかった。自分で役に立てるのであれば、また手伝いたいと思う。

